

1月定例教育委員会会議録

1、開会年月日 令和5年1月19日（木）

2、閉会年月日 令和5年1月19日（木）

3、出席委員氏名

西田 伊作 吉田 義和 西畑 敦司

未浪 真希

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

教 育 長 伊勢 和彦

事 務 局 長 青木 仁

教 育 総 務 課 長 奥村 紀一

ま な び 推 進 課 長 藪内 善史

ま な び 推 進 課 付 課 長 長岡 律子

文 化 財 課 長 今里 美恵子

教育総合センター所長 山口 忠幸

図 書 館 長 河本 由賀

市民総活躍推進課 前田 恵美子

5、会議に付した議案の件名

日程第1 教育長報告

日程第2 議題

第1号 天理市立学校における学校運営協議会委員の追加委嘱につ

い

て（案）

日程第3 報告

○1 2月市議会定例会の報告について

6、会議の経過議題

開会 午後 2時00分

終了 午後 2時41分

1 教育長

ただいまから1月の定例教育委員会を開会いたします。

本日の署名委員は、西田委員と末浪委員にお願いいたします。よろしく申し上げます。

日程第1 教育長の報告をいたします。

今、別室で教育委員さん方には、この資料にある義務教育学校下市あきつ学園の冊子を見ていただきました。事務局会でもお話ししたのですが、別の資料をお願いします。

一つ目に、自由服で登校。この辺はこの前局長を通じて市長からも、制服を一遍考えるということをやってみないといけないなという話でした。コロナの関係で始まった体操服登校が続いているということで、この際完全に元へ戻すのではなくて、制服そのもののありようを考えてはどうかということが、市長の頭の中にはあるようです。

櫛本小学校では、6年生の話合いで、ジェンダーの制服にしてはどうかということが子どもたちから出て、子どもたちの発案で全家庭にアンケートを採るということをされました。そのときに子どもたちに最初約束したのは、全校の家庭が全部賛成だったら、学校は頑張って変えてみるという約束をしたようです。ただ、全校賛成ではなかったみたいで子どもたちも納得したという、天理市でも論議を始めていけないといけないのかなと思っていますので、また、教育委員さんのお考えも聴かせていただいたらなと思います。

二つ目に、教室に黒板とチョークがありませんね。義務教育学校どこを見ても、やはり最先端のものをそろえています。当然1つなのでお金がかけられます。

天理市が今課題としているのは、公民館や学校をはじめ、これから子どもたちがどんどん減っていく中で、人口も減っていく中で、ハードが全部整理できる数であるのかどうかというのが課題になっていますが、その先端をいくようにぎゅっと1つに固めたので、お金やその管理費が安いので、その分最先端を入れられるということです。

そして、3人の担任がおり、これは福住小・中学校でやっていますが、5年生以上は全ての教科で先生が教えるとか、そして、今天理市がみんなの学校のプロジェクトをやっていますが、やはりSDGsが喫緊の課題だと、教科らしく各指導主事が食品残渣のレクチャーを地域の人と児童に、各学校に回ってレクチャーをして、食品残渣の持ち込みを始めてもらえるように、今動いてくれています。

次を見ていただいたら、何と11もの学校が1つに合わさっているというのが分かります。天理市は、これを選ばないでいこうというような市の方針になっています。集まってきたところはいいけれども、なくなったところが寂れていくという声を何となく聴いています。福住も校区制を廃止して残したのは、やはり学校がなくなったら町が寂れるということで、そうはならないようにしようということでやっています。

次見ていただいたら、やはり大事なものは、未来へ向かう力と地域の絆づくりというのはどこも課題で、天理市がみんなの学校プロジェクトとして大事にして、地域ぐるみで学び合い支え合いをしようというところは、これからどこの学校も唱えているところです。

ただ、天理市がやろうとしているみんなの学校プロジェクトが、これに相対として引けを取らない中身をつくっていかないといけないと

ということで、教育委員会の事務局も見に行ってもらって、すごいなと思うところや、最先端はどうであるのかというところを見に行きたいと思っています。そういう視点で、教育委員の皆様も、もしお時間があって、興味がおありなら、3月25日土曜日の午前10時より式典、午前10時半から内覧ですので、考えてみてください。

今の話の中でも言いましたが、みんなの学校プロジェクトも、市民協働であったり、あるいは地域社会であったりまなび推進であったり、教育総務部が連携して回っているおかげで、少しずつ進展をしてきました。また、中学校のみんなの学校バージョンとして、福祉政策課と今やろうとしていることも今日市長に話をしに行きました。

それでは、議題に移ります。

日程第2議題「第1号 天理市立学校における学校運営協議会委員の追加委嘱について（案）」の説明を、まなび推進課地域学習係からお願いします。

1 まなび推進課付課長

それでは「議題第1号 天理市立学校における学校運営協議会委員の追加委嘱について（案）」の説明をさせていただきます。

天理市立の小学校及び中学校における学校運営協議会の委員について、今般朝和小学校長より、國保鐵男様の推薦がありました。

任期は、令和5年1月19日から令和5年3月31日までです。

資料として、天理市立学校における学校運営協議会の通知等に関する規則も添付しております。

以上、議題第1号の説明とさせていただきます。御承認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1 教育長

何か質問等ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、「議題第1号 天理市立学校における学校運営協議会委員の追加委嘱について（案）」を承認することいたします。

日程第3報告に移ります。12月市議会定例会の報告については、資料を事前に送付させていただいておりますので、読み上げは省略させていただき、教育委員の皆様からの質問を受けさせていただきます。

何か御質問等ございませんか。

1 西畑委員

まず2月広報についてのお話ですが、早いこと取り組むことができ、課題をされているということは喜ばしいことだと思うのですが、早めに取り組み、早く慣れるということは、その次のステップに係る最初の一步が踏み出せているということですね。これもただ単に早くできてよかったな、だけではなくて、ここから天理市らしい教育というところに結びつけていくというようなことをどちらかというと考えていっていただきたい。

例えば、今そのロシアとウクライナの戦争の中で、サイバー戦争ということが起こっているというお話を聴きます。フェイクニュースなどを使い、SNSに自分のところの都合のよい情報ばかりを流して、国際テロもつくっていくというような、そういうケースもよく聴きます。そういうことが本当に正しいものなのだろうか、早くにICTの機器に慣れてもらうことによって、SNSの情報というのは本当に正しいのだろうかというのが、単に考えられるようなことをもって、国

際色豊かなこの地域、もの、この町というところに貢献するような、
そういうような教育というものを考えてみていただきたいと思います。

そのほかにも、天理市のよいところってたくさんあるのですけれど
も、その辺を、この町に生まれて育って、それで、そこで過ごしてよ
かったなと思えるような教育というものをつくり上げていただくこと
に、このICTというところをうまく活用していただければな
おありがたいなと思います。

1 教育長

ありがとうございます。

本当に、導入して使うのが当たり前になるように努力した昨年度か
ら、いよいよ中身を深めていく、この今からさらに来年度に向けての
ことが試されているように思います。最先端の方法を何とか導入でき
たがゆえに、豊かな学びをしていかないと、今までと同じ中身ではだ
めだと、何のために最先端の方法を導入したのか。中身こそが豊かに、
そして、時代にマッチングした学びをつくっていくことこそが狙いだ
というような御意見だったと思います。その辺で、藪内課長、何かい
つもICTのことで指導主事と話合っていたかどうか何か御意見あ
りますか。

1 まなび推進課長

はい。ICTにつきましては、本当に現場の先生方が非常に頑張っ
て取り組んでいただいているところでございます。オンライン授業に
つきましても、スムーズに子どもたちに対して配信したいところす
けれども、いかに授業に活用し、分かりやすい授業にしていくのか、
そこが先生方の力量、これから高めていってもらいたいと思っていま

すので、まなび推進課としても、様々な研修の紹介等をということをしながら、スキルアップにつなげていけたらなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

1 教育長

はい。またいろいろ御指導もいただいて、この前メタバースのみんなの学校で、不登校対策ができないかという、天理大学の千原教授と話をさせてもらって、すごく貴重な御意見で、ただ、やはり専門的な知識を持ったカウンセリングの人がここには絶対必要だというアドバイスももらって、その辺も含めて今の不登校の増加であるとか、登校不安であることに対応できるようなICTも深めていかないといけないなと思っています。

ほかに御意見はありませんか。

1 吉田委員

そのICTのことですけど、まずは効率のよさとか便利さ、それから、分かりやすさ、そう面で本当に天理市は、早くにどんどん進めていただいて、本当にとってもよいことだと思います。それで、さらに進めていただきたいわけですがけれども、そのバランスの問題ですね。人間の目とか手とか言葉とか、そういうものを使ったよさという部分もあると思うので、このICTの活用を進めていくこと、どんどん進めてほしいんですけども、そういった本来の自分の感覚で捉えるという部分も残しておいてほしいなと思います。

それで、この市長の答弁にありますけれども、理科の授業の植物などの自然観察を、スケッチするのに変えて端末で撮影した画像データを共有しようというのは、まあこれもそれなりの利点はあると思うの

ですけれども、やはり人間が目で見えて手で描いて、それで、花なら花のその構造を理解する。ただ昆虫を写真に撮っただけでは、足6本あるというのはどこから生えているかというのも、やはり手で書いたときに比べるとその辺は希薄になるかなと思うのですね。

ですから、やはり大事なことを残しながらICTを活用する。そのバランスというのを失わずに進めていただけたらと思います。

1 教育長

はい。大切な意見だと思いますが、そのことについての御意見の追加はありますか。

1 末浪委員

五感を使うので、ICTの活用でいうと、2つの感覚しか使いづらいいのではないかなと思います。その嗅覚だったり触覚だったり味覚というのはここから感じ取れないので、吉田委員がおっしゃるように、そのバランス。五感はすごく大事にして欲しいなと思うのです。

例えば、花のことも、その花というところは画像で見えるけれども、そこから嗅ぐにおい、見えないにおいというのは、その現場に行かないと分からないので、バランスがうまく取れたらいいなと思います。

これを見ると、ICTの活用をいかにどうするかとか、何かそういうところばかりにいつているので、そうじゃないところも両方併せて話が進んだらなと思っています。

1 教育長

ありがとうございます。体験活動であったり芸術的な学びであったり、あるいは一つのふれあいであったりというのは、みんなの学校プロジェクトには欠かせないものだと思います。やはり人の体温、ふれ

あい、言葉の掛け合いや表情の交わり合い、まなざしの交わり合いであるとか、あるいは息遣いであるとか、そういうようなことを多世代の人から子どもたちが学ぶというのが、この世の中ではなかなかできにくくなっているのです、それをみんなの学校プロジェクトでもう一度新しい形で復活したいというようなことを思っています。

今のふれあいに、もちろん絵を描くことや手を動かして字を書くこともものすごく大事で、ただその一つのふれあいという点で、蕨内課長、この前の柳本小学校の俳句の、手で書く学びとともに、子どもたちの高齢者との触れ合いの事実を御紹介いただけたらなと思うのですが。

1 まなび推進課長

先日、柳本小学校で公民館活動として俳句のクラブの方が3名来られてまして、子どもたちと活動をさせていただきました。

2日間連続で6年生に対して、小学校の思い出というテーマで俳句の学習をさせていただいたのですが、初日はやはりお互い固い雰囲気でしたが、2日目になるとお互い顔も分かって、和やかな雰囲気です。授業が進んでいきました。

その中で、授業が終わりまして、ありがとうございましたと終わったのですが、一緒に活動していただいた1人のお年寄りの方が、子どもに何かちょっと声をかけていただいたのですが、なかなか話ができない返事をしてくれない子だったみたいです。それで、話をするのが嫌なのかなと思って、その方はタイミングを見ながら様子を見て時々声をかけておられたという、そういう子と出会われたのです。それで、授業が終わった後、その地域の方が廊下から帰ろうかなと思

ったときに、その子が、授業が終わった後廊下に出てきて、その方の横に来て、「ありがとうございました」とお礼を言ったというエピソードがありまして、地域の方が非常に喜んでおられました。

また、もう一人の方ですけれども、この2日間の活動を通した中で、授業が終わって教室を出ようかなと思ったときに、1人の子がずっと寄ってきて、「また来てね」って声をかけてくれたらしいのです。その方はもう廊下からその後すぐまた校長室まで行くのですけれども、何度か「うれしかった、うれしかった」って、「また来てねって言ってもらったんやで」と何度もおっしゃっていらして、非常に有意義な時間を過ごすことができましたして、3名来られたのですけれども、皆さん張り合いが出て、この2日間を過ごすことができたとおっしゃっていましたので、やはりこういう地域の方と子どもたちの活動というのは非常に大切なのだなと思います。以上でございます。

1 教育長

実際のそういう触れ合いは、脳からセロトニンという自己肯定ホルモンが出ると言われています。やはりそれは、今吉田委員が言われた、本当に五感を大事にした学びもあってこそだと思っています。

どちらもバイリンガルじゃないですが、ここは大事で発達したがゆえにどちらの学びも充実させていって、先ほど西畑委員が言ってくださった、より時代にマッチした学びをつくり上げていく時代なのだなと思います。今までやってきた学びに戻るのではなくて、新しい学びを、これから未来を生きる子どもたちがこの時代を生きていける学びを想像していくのだと、そのためにはみんなで学び合うんだという姿勢が必要なのかなと思いました。

この前、丹波市小学校で凸版印刷の方がSDGsの授業をオンラインでされました。そのオンライン授業の子どもたちの反応がすごくよくて、凸版印刷の管理者の方が、「教育長、あちこち全国に行っていますが、こんなに反応が豊かなのはここが初めてです。」とおっしゃって。その後カードゲームをまなび推進課で用意していつてくれたのですが、すると子どもたちが「やりたい、やりたい」と言って、好きに友達とグループを組んで、クラスの友達とそのカードゲームをする。オンラインで授業を受けて、だけどもサポートは凸版印刷の方が実際に来ていろいろしてくださる。そして、友達と触れ合ってカードゲームを、笑ったり考えたりしながらやる、そういうことがやはりSDGsの目指していることの根本的なことになるのかなと思いつながら見ていました。

貴重な御意見ありがとうございます。その他にはいかがでしょうか。

1 西畑委員

ICT活用による教職員の働き方改革という部分ですけれども、校務支援システムの活用、データ共有というところを進めていただけて、大分効率化はされてきたのだと思うのですが、もう一歩踏み込んで時間短縮ということを考えていただければなど、ただただそのデータとして共有するというだけではなくて、ある程度の意見交換であるとか、それから質問とかそういうことというのも、先にチャットで出しておいて、それでやり取りをすることによって、実際に対面する時間というのは恐らく必要だとは思いますが、その対面する時間というのが、やはり今までの職員会議だと1時間かかっていたものを、15分とは言いませんが30分に縮めたということがで

きてくるかと思えます。なので、そういうもう一歩踏み込んだ活用の仕方というものを、職員の皆さんに考えていただければなと思えますので、よろしくお願いします。

1 教育長

今おっしゃった御意見、来年度からしようと思っている生徒指導主任者会のオンライン化など、いろんな会議をオンラインでいくからこそ深められるようにしなきゃならないという意見だったと思うのです。

教育委員会で、指導主事がいろんなものを来年度、教育委員さんの意見でアドバイスもらって、こんな形の会議を組み立てようというのを実際にやって、今ここで聞き流すのではなくて、それをやったらどうですかね。そうしたら、一般の企業で仕事をしておられる方のほうが、はるかに活用して会議や仕事をしていると思えますので、次の会議でちょっと洗い出して、4月からやろうと思っている出張をオンラインにしたほうが深まるよ、というものを相談に乗っていただいて、そして今言われたように、こういった掛け合いもできるし、より深まると思うので、それでたまに1回実際にミートしてもいいのかなと思えますので、今もらった意見を具体的に一度生かして、参考意見にするのではなくて、具体案として進みませんか。まなび推進課はどうですかね。

1 まなび推進課長

はい。ぜひその具体的な会議を、来年度どうすれば効果的なのかということをぜひアドバイスをいただいて、よりよい我々にとっての働き方にもつながるように、教職員の働きにもつながるようなものになればと思えますので、よろしくお願いします。

1 教育長

この後教育長室に30分ほど来てくださるということで、指導主事
でいる者を連れてきて、骨組みだけでも相談させてもらえれば、次少
し来てもらえますかという感じをお願いできるのかなと思うのです。
それで、皆さんもほかの方もいろんな意見を言ってくださると思いま
すし、定例教育委員会だけでなく、時間の都合のつく方で、都合の
つく時間の長さだけでよいので、これから新しい先生たちの会議をす
るときに、教育委員さんに入ってもらって、こんな会議にしようよと
いう意見がまさしく実のあるレイマン・コントロールだと思うのです
が、教育委員さんいかがですか、その辺は、御協力いただけますか。

1 西畑委員

はい。

1 教育長

ありがとうございます。この後終わってから少し、よろしくお願
いします。

ほかの意見はありますか。

1 吉田委員

あと2点ほどあるのですが。

1 教育長

はい。お願いします。

1 西畑委員

学校トイレの洋式化というのと、洗浄機能付きのトイレという部分
ですけれども、洗浄機能付きのトイレって意外と掃除がしにくいとい
うこともあって、これをもし実現していくのであれば、日常の清掃や

衛生というものを、もう少し細かくやっていかないといけないことになってしまいますので、その辺まで併せて考えていただいて、次に計画を立てられるときに、せっかくつけたはいいけれども、汚いまま使われているということのないようにとお願いをしたいと思います。

1 教育長

はい。多目的トイレは、今はまだ防災のときの避難所になったときに、お風呂に入れないときなどで主に使うような。局長、そうですね。

1 事務局長

そうですね。

1 教育長

ふだんの学校生活で必ずそれが必要だということはどうですか。

1 事務局長

基本的には災害があったときに、今教育長おっしゃっていましたがようにお風呂に入れないとか、その衛生面で問題がありますので、一応そういうことも想定して、取り分け多目的トイレでありますとか、そういうところをメインにまず考えていかないといけないのかなと考えております。

それで、実際問題そのウォシュレットですね。シャワートイレにつきましては、やはりみんながみんな使うというのではなく、例えば外のものは使いにくい、という方も結構おられますので、その辺も考えながら、それと先ほどおっしゃっていただいた、そういう清掃の面であります衛生面も考えまして、いろんなことをトータルで考えながら入れていきたいと考えております。

1 教育長

トイレの件にほか追加の御意見ありませんか。よろしいですか。

それ以外の御意見はありますか。それ以外の項目に関して。

1 西畑委員

ディスレクシアの課題のお話ですが、全体の4%程度とお話をいただいています、実際には3%~7%という数字が出ていると聞いています。本市は取り立てて多いわけではなくて、標準的な数字かなと思うのですが、先ほどのそのICTの活用ということも含めて、ディスレクシアというと、いわゆる目で見ただけの文字と語彙との相関が取りにくいということだと話を聞いていますので、その読み上げ機能とかそういうことを中心に検討を進めていただくと、この話は進みやすいかなと思うのですね。

ただ、一般の教室の中で読み上げてという機能を使うのはなかなか難しいのかなと思うので、そこら辺のその取り出し方ということもちょっと考えていただいて、それで対応していただければと思います。

1 教育総合センター所長

はい。ありがとうございます。

1 教育長

読み上げ機能のことも導入している一部の例は聞いているのですが、英語も含めてですけどね。

うちは幸いに教育総合センターがあって、各学校での学びにくさがあれば相談に行って、それで保護者とともにそういう検査も含めて行って、それでどんな対象サポートが必要なのかということを専門にやる機関が、県内にもいち早くありますので、そこをもっと連携してい

かないといけないなと思います。山口所長、どうですか。

1 教育総合センター所長

はい。この件にしましても、いろいろ相談されることで分かってくるといふことがありまして、相談を受けてそれによってどのように対処していくかということ、まなび推進課と相談しながら行っていきたくと思っています。今、教育総合センターにいろいろ相談に来られる中で、本当に困っておられる方がたくさんおられますので、いろいろな面では今後とも相談しながらやっていきたいと思うのですけども。

1 教育長

専門的な知識を持っておられる職員もいて、先ほどお話した天理大学の千原先生も来てくださっているのです、そういう施設を持っている天理市は、やはり早くからそういうことに対応してできているのかなということ、この議会答弁をする前に山口所長から聴かせていただいて、さらにもっと充実させていく必要があるなと思っています。

そのことに関して、それでよろしいですか。

1 末浪委員

ディスレクシアに対する保護者の理解を進めると書いてあるのは、探っていくというのは、まだ下ろしていない状態ですか。

1 教育長

その辺はどうですか。相談があったときには対応しているというだけで、全体には下ろしていませんよね。

1 教育総合センター所長

そうですね。

1 教育長

はい。個々の授業の学びにくさやいろんなプライバシーのこともありますので、個々の課題を拾い上げて保護者に相談させてもらって、保護者の了承を得て専門的な知識を持った教育総合センターとつなぐ、あるいは、県の施設をつなぐ、そして、もう一度それを学校で試してみ、そこへまた教育総合センターから事務会相談にいて、その後の相談もきちんと見るという形で、そのときにやはり保護者にも知識や理解を、カウンセリングや相談と一緒にやっていくというので、全体にこうやる、ということはまだ始めていないと思います。

1 末浪委員

なるほど。保護者の方も、皆さん何かその、おかしいなと思っていてもなかなか動かない方もいらっしゃると思います。何がおかしいかちょっと検査してみようという方もいらっしゃるれば、動かない方もいらっしゃるって、その方は知識や情報がないまま子どもの年齢だけが大きくなってしまいうので、そういうところのすくい上げというのをどこまでするかというのが、いつもの課題かなとは思いますが、天理市はこういうサポートをしていますよっていうものを何か。

1 教育長

そうですね。就学指導委員会も含めて、学年が上がったり入学したりするときの就学指導委員会の話も、簡単にしていただけたらと思いますけど、課長どうですか。

1 まなび推進課長

教育支援委員会に向けての話合いになるのですけれども、毎年学級の中で課題のある子どもさん、特に支援学級に入っていないくて通常学

級にいる子どもさんにつきましても、学校で保護者と相談する中で、いつも夏休みに教育相談をする機会がありますので、そこに相談に行かれて、子どもさんの実態、お母さんの思いを聴きながら、やはり特別学級への入級が望ましいのか、またはお母さんが希望されているのか、その辺を丁寧に聴き取りながら、子どもさんの実態に応じた形でよりよい教育になるような形で進めていっているのが実態です。

1 教育長

教育支援の必要な方を各現場から定期的に上げて行って会議をします。しかもその会議は、学校の教員だけじゃなくて様々な分野から、天理市の医師会からも来ていただいて、それで医学的にアドバイスを受けながら、その子について何が適切なのかということ、定期的に行っています。その会議は、丸一日続きます。各現場の学びの支援が必要な子たちを一人ずつ、丁寧にやって行って、医師の立場から言うのと、学校現場の立場から言うのとまた見取りが違って、保護者の意見も出て、19時、20時まで朝からやっていく会議で。

1 末浪委員

年1回ですか。

1 まなび推進課長

年に2回。今年度は3回ですね。

1 教育長

なかなか、これよく来てくれていると思うような感じで、もちろん中学校の校長代表、小学校の校長代表も入って行っているのですが、それを現場に返して家庭訪問もするという感じで。

ただちょっと全体的に周知するというのは、あるいは保健だよりで

あったり学年だよりであったり学校だよりであってしていく必要があるかもかもしれませんね。

1 末浪委員

単語とかこんなことがありますよ、くらいの軽く触るような。

1 教育長

そんなことがカテゴライズしてあると知らない保護者が、うちの子が悪いみたいな思いにならないようにしていかないと。

1 末浪委員

そうです。

1 教育長

それはその子のプレイの問題ではなくて、支援側のどんな支援をするかという問題だよと、きちんと書いてもらわないといけないという話ですよ。

1 末浪委員

そうです。親がそれを知っておけば、そういう虐待につながらないので。

1 教育長

ええ。それで、その子がそのことを卑下したりして生きづらくなならない。登校指導にならない。ひきこもりにつながらないように支援を変えていかないといけないという考え方を、いわゆる今苦労して頑張っている子が努力したら将来幸せになる、みたいな価値観じゃなくて。その子が生きやすい学びやすい支援が何かを考えられるように、全体的に漏れ落ちがないように検討していく必要があると。

1 末浪委員

はい。親も学校に預けたら学校の責任というのではなくて、やはり親もその学びが必要というか。

1 教育長

そうですね。

ちょうど今特別支援のカテゴリの件が返ってきたので、親の意向や取り出しが要らないということで、課題のある子が通常学級に帰るといったことが全国各地で起こっている。それを受けて、特別支援の指導主事が学びづらさがあるのはいろんなパターンがあるのですよ、というような発信が教育委員会から何かできないか。あるいは、現場に全体として発信を求められないか、この機会だからこそね。教育特別支援のありようが変わった来年度実動する機会だからこそ、少し校園長会に投げかけてみて、今の末浪委員のことを具体的にやっというふうにするような動きを働きかけてみて、どのような形で実現するか分かりませんが、各現場に考えてもらいましょうか。

それ以外に少し知っていただきたいのは、7ページにグリーンケアというのがあって、いわゆる家族を突然に亡くした子どもたちのケアです。私も議会では具体的な名前を出しませんでした。ある程度のスパンであります、市内の小中学校で。やはりそれは悲惨というか、子どもたちどうなるのだろうかという状況もありますが、議会は公開されますので、実際に名前や具体的な事例は挙げませんでした。そういうことがあったときに、きちんと教育総合センターのカウンセラーがその学校に行ってくれます。その被害にあった子らは措置されたりしてすぐにいなくなったりします。事件性があれば警察に措置されて

そこから違う施設へ行くとか。その子がいなくなり、周りの子らもショックがあるので、カウンセラーが何日間か学校に行くという体制が天理市は組めます。しかも、教育総合センターの専門の方から、このような周りの子どもたちの反応がありますよという類型的なパターンを全職員に配っていただける。そして、このようなことに留意して当たってくださいという具体的なマニュアルや、スキル・理論も配っていただく。その一番下の項目には、教職員のメンタルもやはり気をつけないといけないということも書いてあります。そこまで丁寧なことを、教育総合センターと繋がって、即現場に働きかけもらっているので、そういうことも教育委員の方々に実際に知ってもらうためには、教育総合センターの何らかの行事を紹介して見てもらったらどうかなと思います。

大学生、大学院生の子たちがひきこもりの子らを相手するために家庭に行って、悩んだり学んだりしたことの事例研究を教育総合センターでやっている。それに私が参加させてもらって、これは良いということで、今年为天理市新採教員研修の際に、新採教員にその大学生・大学院生たちがひきこもりの子や不登校の子とやっていることの発表を聴いてもらいました。

そのような現場に教育委員の方々を案内させてもらって、教育総合センターがどのようなことを行っているのかということあまり知られていないので、見てもらったらどうかと思いますし、先ほどの公民館の俳句の授業は、教育委員の方々に見てもらいたかったと思っていました。

凸版印刷の授業も、一人、二人ずつ程度で日を分けて行っていただ

ければ、私が下手な説明をするよりも分かってもらえるのかなと思いますので、日程調整の方をお願いします。

ほかにご質問等がありますか。

それでは、本日の定例教育委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

閉会 午後 2時41分